

だいきっずケニア

ジャパンアフリカトラストでは、だいきっずと協働し、ケニアのJAT農場でだいきっずケニアを開催しています。日本とケニアの子供が同日開催で大豆の栽培を行います。このプロジェクトでは、栄養価の高い大豆栽培による子供たちへの食育を行うとともに、ケニアでの大豆農業支援を目的としています。

また、看板や絵画のコンテストやお豆腐作り・味噌作りといった日本の食文化の伝承をアフリカとの国際国流を通して行うことで、子供たちが世界を感じながら取り組めるグローバル化推進事業です。



ジャパンアフリカトラスト団体概要

ジャパンアフリカトラストは2011年に医療・食品・国際協力・教育などの異業種で活躍するスタッフとアフリカ人で設立されました。異分野同士の経験・知識をあわせて、社会的問題に取り組んでいます。ケニアでは農業技術支援事業や教育支援事業を、国内では多文化共生事業や国際理解教育講座を行っています。アフリカの開発援助に取り組むと同時に、日本の国際化を推進しています。



年間行事

- 1月 新年会
- 3月 理事会
- 4月 総会
- 5月 アマアフリカ出展
- 6月 ケニアの環境と文化のセミナー
- 7月 だいきっずケニア
- 8月 チャリティーコンサート
- 9月 愛フェス出展
- 10月 ワールドコラボフェスタ出展
- 11月 ケニア料理教室
- 12月 国際理解教育セミナー



あなたもJATの活動に参加しませんか？

ジャパンアフリカトラスト(JAT)では、国内事業と海外事業に分かれて活動しています。国内事業では主に、国際理解教育・フェアトレード・多文化共生・国際交流・チャリティーイベントなどの活動を行っています。海外事業では事業地での企画運営・インターンシップなど行っています。日本とアフリカを結び、新しい流れを作るJATの活動に、会員として参加しませんか。会員ではなくてもボランティアスタッフも常に募集中です。お気軽にお問い合わせください。

会員の方々には、以下の特典があります。

- ①JATが主催する各種催しへの優先参加
- ②JAT事業に関する情報
- ③アフリカの現場からの最新情報

年会費

正会員 10,000円
賛助会員 3,000円

三菱東京UFJ銀行 土古支店
普通預金 口座：0067601
名義：特定非営利活動法人
ジャパンアフリカトラスト

特定非営利活動法人
ジャパンアフリカトラスト
Japan Africa Trust Inc.

(事務局)
〒455-0881 愛知県名古屋市港区船頭場五丁目323-2
Tel & Fax: 052-710-7479
Website: <http://jat-jp.org>
Email: info@jat-jp.org



Japan Africa Trust



One World One Nation

JATは日本とアフリカを結び、新しい流れを作る国際協力NGOです

ジャパンアフリカトラストとは

ジャパンアフリカトラストは東アフリカ、とくにケニアで農業支援を通し貧困問題に取り組む国際NGOです。現在、ケニアの失業率は48%で適当な職を得るのが難しい状況にあります。親が収入を得られず子供を満足に育てることができない結果、路上生活をする子供達・いわゆる「ストリートチルドレン」が激増しており、その数は約20万人とも言われています。国のセーフティネットも確立しておらず、貧困で生まれた者が貧困から抜け出すのは容易なことではありません。



ジャパンアフリカトラストは一方的な支援ではなく、農業を通して現地に雇用を産み、貧困層に仕事の機会を与えることで、彼らが貧困から抜け出し自立した生活を行うきっかけを提供します。ただ受け身の支援ではなく、彼らが自ら立ち上がることをサポートすることにより、「お父さん、お母さんが子供たちのために一生懸命に働ける」、そういったことが子供たちの未来を確実に開くと信じています。

さらに農業支援プロジェクトで得られた収益は、彼らや子供たちの教育活動や保健衛生活動に使われ、いわゆる社会的投資を実現します。このように収益事業を通した住民の自立支援は今後の新たな取り組みとして注目されています。

国際協力事業の使命は、貧困地の開発援助と同時に、日本のさらなる平和と繁栄です。海外での活動や交流により、日本のさらなる国際化の推進を目指しています。

皆様からのご支援が、日本から遠い、地球の裏側の人々に笑顔をもたらすものと信じております。



(愛フェス)



(ケニア料理教室)

マイクロエンパワメント事業



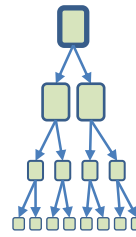
ジャパンアフリカトラストのグリーンプロジェクトでは、農業技術の支援と、植林による水確保をはじめとした環境保全を行っています。農業試験場としてグリーンハウスの高収益農業をデモンストレーションします。生産・消費・収益性の高いトマトを先進的技術で栽培実演し、研修場として貧困農家の若者を受け入れます。3か月の研修後には地元に戻って、高収益事業を実践し、次の研修生へグリーンハウスを与えます。このようにPay it Forward方式で小規模高収益事業が自動連鎖的に広がっていくモデルは、JATが新しく提唱する革新的な貧困改善手法で、マイクロエンパワメントと呼んでいます。現地の生活向上と次のハウスの資金、植林事業として循環します。

ビクトリア湖近くのカカメガの森は、かつてアフリカ最高の美林といわれていましたが、1970年以降の30年間で20分の1となりました。森林減少に伴う樹木による保水力が失われる結果、土壌栄養分の流亡や洪水、崖崩れを引き起こし、水質・大気浄化能力を低下させています。

また1963年のケニア独立以来、農業はケニア経済の頼みの綱と呼ばれています。しかしながら、高い人口増加率、農業に適した土地の縮小、乏しい技術の為、大規模農業以外の農業収益率は非常に低いという問題があります。マイクロエンパワメント事業では、小規模収益事業のグリーンハウスを広め、貧困改善を支援していきます。



(ケニアカカメガ事業地)



(モデル)

国際理解教育事業

名古屋市からの助成を受けて、留学生がインターン講師となり、小・中学校などで、自国の環境や文化を伝える国際理解教育講座を行っています。ケニアのムワンバ小学校でも理解教育を行い交流しています。

また、カカメガの現地ハウス事業地へのインターンやスタディーツアーの受け入れや、国内のJAT大豆畑での農業実習などを行っています。



(CBO カカメガ)



(中学校理解教育講座)



(中学校理解教育講座)



(ケニアムワンバ小学校)

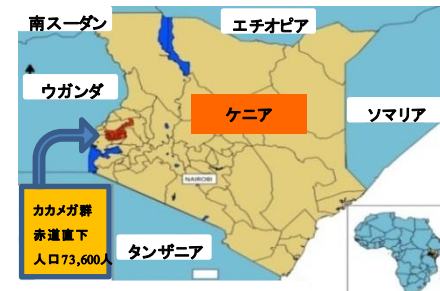


(ケニアムワンバ小学校)



(アフリカクイズ)

プロジェクト地



ケニア西部州カカメガ郡中央部は、ケニア47郡の中で2番目に人口が多く、面積は非常に狭いです。気候は良い反面、貧富の差が激しく、事業の必要性が高く求められる地域の一つです。現地カウンターパートのUMNの事業地です。